

<福島県教育長賞>

全員が安心できる居場所をつくりたい

只見町立只見中学校 2年 横田 心結

「この消費税、何に使われているんだろう。」

私は買い物をしている親を見た時、ふとそう感じました。

私は福島県に住んでいます。そして、福島は、税と関わりが深いと考えています。理由は一つ。東日本大震災の被害を受けたから。私が生まれ、1年が経とうという時、それは起こりました。東北全体を津波と放射線と不安でのみ込み、1万5千人以上の犠牲者を出しました。あの日、赤ちゃんだった私は何もすることができず、お母さんにだっこされていることしかできませんでした。もちろん、家族や友達、恋人を亡くした人たちも、犠牲者の数、それ以上存在します。そんな時、この生き残ってくれた人たちの、体や心の支えになったのが税による支援だったのだと考えました。東日本大震災だけでなく、能登半島地震や阪神・淡路大震災などで苦しんだ人々も、きっとこの税に助けられたのではないのでしょうか。3月11日を迎え、黙とうをささげる時、自分が税に助けられて生き残ることができた幸せと、一生をその場で終え、私たちと同じ普通の日常を過ごすことができなくなってしまった人たちへの悲しみの気持ちで胸が張り裂けそうになります。でも失った命は元に戻りません。時間も戻ってはくれません。だからこそ、1つの命、1つの人生、この人たちの分も思いっきり楽しんで、大切に幸せに生きようと思います。税は大切。欠けてはならない存在だと、税と災害をつなげて考えられたことで、改めて実感することができました。「災害は意図せず急に起こる」ものです。発災後に使うことはもちろん、未然に防ぐ上でも、税は力を発揮しています。例えば、災害が起きる前から、危険な場所、安全な場所を確認できるハザードマップなどは、税を使って作られています。ハザードマップを市区町村の公民館や目立つ所にはり、同時に、これらが税からできているものだと伝えることができたならまさに一石二鳥。たくさんの方が安心して暮らせます。こういったこと

を全国に発信して、税の使い道や大切さを知ってもらいたいです。そして、福島、日本、世界と安心して暮らせる場を作っていき、偶然、なんとかなどの不安な言葉をなくし、やっておいてよかった。全部税のおかげという安心した言葉を増やしたいです。そのために、もっと日本に役立つことに使っていただきたい。あわよくば、日本外でも、災害が起こった国の支援に、できる範囲で使ってほしいと思います。救えなかった命より救えた命を増やしたい。税に助けられ、税のことをより深く知りたいと思える人が1人でも増えることを祈ります。税は大切、人を幸せにする、不幸にさせないものだと、みんなが思える、そんな日本を一人一人が団結して高め合いながら作っていきたいです。